

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

この会報を皆様が手にとられるのは、英国3歳牡馬3冠緒戦「G二千ギニー（芝8F、5月4日、ニューマーケット競馬場）」の開催を、目前に控えた頃だと思っ。その二千ギニーで1番人気に推されるであろうシテイオウトロイが、今月のこのコラムの主役である。

18年の米国3歳3冠馬ジャステイファイの、2世代目の産駒の1頭となるのがシテイオウトロイだ。初年度産駒から、G1ウッデイスティーヴンス（d7F）勝ち馬アラビアンライオン、G1ベルモントオークス（芝10F）勝ち馬アスベンゲロウと、芝・ダート両路面におけるG1勝ち馬を送り出し、種牡馬として上々のスタートを切ったジャステイファイだったが、昨年2歳となった2世代目の弾け方が半端ではなかった。英国でG1勝ち馬になったシテイオウトロイに加え、仏国でG1マルセルブーサク賞（芝1600m）を制したオペラシンガー、米国でG1BCジュヴェナイルフリーズ（d8.5F）を制したジャストエフワイアイ、同じく米国でG1BCジュヴェナイルフリーズターフ（芝8F）を制したハードトゥジャステイファイと、3か国で4頭の2歳G1勝ち馬が出現。同馬を繋養するアシユフォードスタッドは、昨年10月の段階で24年の種付け料を前年から倍増の20万ドル（約3060万円）と発表した後、殺到する申込みで悲鳴をあげ、

価格を明示しない「Private」に設定を変更している。

大柄な馬が多いジャステイファイ産駒の中では、比較的小柄な部類に入るのがシテイオウトロイだ。それゆえ、仕上げも順調に進んだようで、A・オブライエン厩舎の一員となった同馬は、昨年7月1日にカラ競馬場で行われたメイドン（芝7F）でデビュー。同馬を含めて3頭が横に並んで馬群を先導する展開になった後、残り300m付近から抜け出し、後続に2、1/2馬身差をつけてフィニッシュ。緒戦勝ちを果した。

同馬は、その2週間後の7月15日にニューマーケットで行われたG2スペラティブ（芝7F）に出走。多くのファンが、類い稀な才能を持つ若駒としてシテイオウトロイを認識したのが、この一戦だった。序盤4〜5番手を追走した後、残り550mで先頭へ。同馬が本気を出したのが残り300mからで、そこから脚を伸ばして後続を突き放し、2着以下に6、1/2馬身差をつけて快勝したのだ。

その後は、9月10日にカラ開催に組まれていたG1ナショナルS（芝7F）を目標に調整されたが、折からの雨で馬場がGood to Yielding（やや重）に悪化すると、跳びの大きなシテイオウトロイを悪い馬場では走らせたくないとして、陣営は取り消しを決断した。

シテイオウトロイの3戦目となったのが、10月14日にニューマーケットで行われたG1デューハーストS（芝7F）で、ここも路面はSoft（重）となったが、馬場を歩いたオブライエン師が「これなら大丈夫」と、出走にゴーサインを出した。この日の同馬は、ゲートを出ると鞍上のR・ムーアが促すまでもなくハナに立つと、残り500m付近からじわじわと後続との差を広げ、2着以下に3、1/2馬身差をつけて、無敗の3連勝を飾った。

2歳の段階では、この世代で抜けた存在だったシテイオウトロイが、二千ギニーで人気に応えられるかどうかは、シーズンオフの成長があったかどうか、その1点にかかっていると言えよう。母のトゥゲザーフォーエヴァーは、2歳G1フリーズマイル（芝8F）の勝ち馬だが、同馬は3歳時には3戦して未勝利に終わっている。母は、成長力のあるタイプではなかったのだ。

だが、母の全妹であるフォーエヴァートウゲザーは、2歳時には2戦未勝利に終わった後、シーズンオフの間に急成長し、3歳春にG1英オークス（芝12F6y）を制している。

果たして、3歳初戦となるG1英二千ギニーでシテイオウトロイはどのような競馬を見せるか。大きな注目が集まっている。